

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-212012

(P2000-212012A)

(43) 公開日 平成12年8月2日(2000.8.2)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 0 1 N 59/16		A 0 1 N 59/16	Z 4 C 0 5 8
A 0 1 K 29/00		A 0 1 K 29/00	4 H 0 1 1
A 6 1 D 7/00		A 6 1 D 7/00	Z
A 6 1 L 2/02		A 6 1 L 2/02	Z
2/16		2/16	Z
審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 2 頁)			

(21) 出願番号 特願平11-43619

(22) 出願日 平成11年1月14日(1999.1.14)

(71) 出願人 598111973

エクセルライト有限公司

東京都江戸川区中央1-12-17

(72) 発明者 佐藤 康夫

埼玉県北葛飾郡栗橋町大字河原代968番地

171 街区3-2

Fターム(参考) 4C058 AA30 BB02 BB07 CC08 CC10
JJ05 JJ23 JJ24

4H011 AA02 AA03 AA04 BB18 BC18

DA13 DD07 DE15 DG03 DG05

(54) 【発明の名称】 動物体毛用組成物

(57) 【要約】

【目的】 本発明は酸化チタンなどの光触媒体を含有せしめ、抗菌、殺菌、脱臭機能の特徴とする主に犬、猫等の愛玩動物用に供する体毛用組成物。

【効果】 動物等の体毛に付着せしめ、人と動物とが安全でかつ、衛生的な関係を与える。

【特許請求の範囲】

【請求項1】酸化チタン等の光触媒作用を有する中性の光触媒体を水溶液にて希釈混合せしめた動物体毛用組成物。

【請求項2】シャンプーやリンス、コンディショナー等の組成物に酸化チタン等の光触媒作用を目的として中性の光触媒体を混合せしめたことを特徴とする動物体毛用組成物。

【請求項3】光触媒体が使用開始まで作用しないように遮光性の容器に入れた上記請求項目1、2による動物体毛用組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】酸化チタン等の光触媒体は光エネルギー（特に紫外線に近い400nm以下の波長）によって活性し、その結果強い光触媒的作用により光触媒体に付着した有機物、アンモニア、NO_x、等を酸化する性質があります。

【0002】この事は、ウイルス等の細菌性微生物についての殺菌、抗菌、滅菌作用としての衛生機能。

【0003】アンモニア、アセトアルデヒド、酢酸、トリメチルアミン、硫化水素、ホルムアルデヒド、NO_x、等の悪臭物質の脱臭機能を有している事を意味しています。

【0004】酸化チタン等の光触媒体にはバインダーに有機物等を使用したものや、強い酸性の光触媒体がある。本発明に使用される光触媒体は中性の純酸化チタンであり安全性の高い光触媒体の使用を前提としている。

【0005】酸化チタン等の光触媒が強く働く環境として屋外光に含まれる400nm以下の波長による光照射が望まれます。元来体毛系動物には太陽光を好む習性があります。酸化チタン等の光触媒をシャンプーやリンスなどの体毛の洗浄や調整手段又は、直接希釈液を噴霧、又はコートする手段等により動物の体毛に付着又は、コーティングせしめることで、光照射時に光触媒作用が働き、動物の体毛を衛生化することができます。この事は飼主にとっても衛生管理の手間が省け絶えず太陽を好むという動物の生活習性と光触媒作用の相乗によって非常に有効な自己衛生再生機能を期待できるものであります。

【0006】コート手段としてはできるだけ細かな霧状

が適当であるが体毛付着後はUV光線を一時照射することとさらにコーティング性は良好となる。

【0007】酸化チタン等の光触媒体は有機物に対しさまざまな衛生効力を発揮するすることができますが光のあたらない暗所では化学的に安定であります。この事は単に水との希釈の場合は全く問題になりませんが、シャンプーやコンディショナー等の毛髪系の組成物や、香料水、化粧水等の種々の薬品組成物との混合においても化学的に容易である事を意味いたします。すなわち光が照射されない限り酸化チタン等の光触媒体は常に安定で混合された薬品に作用を及ぼさないということであります。そこで、本発明による動物体毛用組成物は製造工程より、組成物が使用開始されるまでの間、光触媒作用を引き起こさないよう遮光性の容器に入れることで長期間保存性の良い組成物を提供することを可能とする事ができるのであります。

【0008】

【従来の問題点】従来はペットの体毛殺菌手段として、たとえばダニ取り用の毒性のある薬品はありました。もちろん人間にもペットにも安全とはいえませんでした。ペットはあらゆる生活空間にあつて自由に行動し、不衛生な場所やネズミなどとの接触、体毛に付着したウイルスや細菌、自らも排出するアンモニアや汚物の付着など、ペットの行動には厳重な注意が必要であり、衛生面で効果的な方法はありませんでした。

【0009】

【発明が解決する課題】本発明は酸化チタン等の光触媒作用により太陽光線や、UV光線、蛍光灯等の弱い紫外線など通常生活間を通しペットが自然に光に当たることで安全にかつ、容易にペットの体毛を衛生化することを可能といたしました。又、一度体毛に光触媒体が付着すれば常に光線下で容易にしかも安全に体毛に付着した菌を殺菌、抗菌、脱臭を繰り返し再生して機能する事を可能といたしました。又、酸化チタンは食品添加物としても認められたものであり、水処理や化粧品等にも用途され、人間や動物に対してきわめて安全性の高い物質であります。従って、寝食を共にする家族的愛玩動物においては安全で触れ合いのある良好な衛生的関係に貢献するものであります。